

【利用者Bさんの入浴の場面】 ※講義資料スライド5と同内容

利用者 B さん…アルツハイマー型認知症の診断あり

・Bさんは、昔から家のお風呂ではなく近くの温泉に出かけることが楽しみで日課だったと家族から聞いており、デイサービスでも入浴することを楽しみにされていました。

・Bさんは最近、廊下から着脱室に入ろうとすると、足が止まってしまう様子が見られるようになりました。

・スタッフが手を引いて何とか脱衣所に入り、椅子に座るように「ここに座ってください。」と声をかけてもなかなか座れないときがあり、スタッフが介助しようとするとき大きな声をあげることが多くなりました。

・衣類を脱ぐのを嫌がる B さんに、スタッフは「ごめんね～。嫌だよね～。」と言いながら結果的に無理矢理脱がしてしまう場合が多くなりました。

・洗身の時にはボディソープ泡立てたタオルを渡すと体の前面は自分で洗うことができますが、自分でシャワーを使うことは難しくスタッフが介助しています。

・浴槽には手すりに掴まりながら5段ほどの階段を下りて、自分で入って行き、気持ちよさそうにお湯に浸かっていますが、浴槽から上がる時は声をかけてもなかなか上がれないときがあり、スタッフが長く入りすぎないように何度か声をかけると怒り出してしまふことがあります。

・Bさんが衣類を着るとき、自ら時々袖に腕を通して引っ張ったり、靴下を手渡すとスッと履くこともありますが、ほとんどの場合できないのでほぼ全介助でおこなっています。

・Bさんが脱衣所や浴室で大きな声を出すことがあるので、他の利用者からは「うるさい。」という声も聞かれるようになりました。